

本堂で十五年戦争展

富山大空襲の焼夷弾など200点

富山市・荘厳寺

富山市の荘厳寺で先ごろ、「宗教者が企画する 十五年戦争展」が開かれた。阿部行道住職が代表を務める、県内の住職や牧師などで組織する県宗教者平和協議会が主催した。

会場の本堂には、昭



和20年8月1日の富山大空襲で同寺に落ちた焼夷弾をはじめ、知人から借りた軍服、戦中のポスター、写真、戦争協力を求める「ご消息」の写し、新聞など200点を展示（写真）。併せて戦没者追悼法要を営み、戦争と平和を考えるお話会や証言ビデオも上映した。

阿部住職は「戦争に協力したという愚行を繰り返してはならない。二度と戦争が起きない世の中になりたい」と話した。